

Meiji Institute of Philosophies (MIPs)

ワークショップ 子どものための哲学 (P4C) における認識的不正義

日時 | 2024 年 7 月 19 日 (金) 17:00-19:00

場所 | 明治大学駿河台キャンパス リバティタワー 14 階 1143 教室

アクセスマップ

https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/access.html

キャンパスマップ

https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/campus.html

参加自由・入場無料

主催 | Meiji Institute of Philosophies (MIPs) 明治大学文学部心理社会学科哲学専攻

<https://www.isc.meiji.ac.jp/~phil/>

17:00-17:10 趣旨説明 池田喬 (明治大学)

17:10-17:15 明治大学哲学専攻の学生による発表 (予定)

17:15-17:55 講演 西山溪氏 (開智国際大学) 「「聞いているだけでいい」と言えるのは誰か — 対話の認識的主体と「希望的信頼」について」

17:55-18:20 コメントとレスポンス コメンテーター 佐藤邦政氏 (茨城大学)

18:20-18:50 全体での話し合い

18:50-19:00 結びとこれから 佐藤邦政氏 (茨城大学)

趣意文 |

ジェンダーや人種のせいで知識の主体としての能力を低く見積もられたり、自己理解を表現する概念的資源に乏しい状況に置かれたりする現実がある。2007 年に M. フリッカーが出版した *Epistemic Injustice: Power and the Ethics of Knowing* (Oxford University Press) はこのような「認識的不正義」に私たちを気づかせ、国際的に多くの事例研究を生んできた。日本でも昨年ついに翻訳書『認識的不正義』(佐藤邦政監訳、飯塚理恵訳、勁草書房) が刊行され、目下、様々な事例研究を含んだ『認識的不正義ハンドブック』(勁草書房、近刊) が刊行準備されるなど、注目が集まっている。

他方、米国の M. リップマンらによって提唱され、世界の各所に広まった「子どものための哲学 (P4C)」においては、哲学対話を通じて子どもたちが相互に尊重しあい、対等に語り合うような「探究の共同体 (community of inquiry)」を作り出すことが期待されてきた。しかし、その際、教室という空間も、社会の様々な場面と同様に、ジェンダー、人種、その他の特徴によって、発言の重みが左右されたり、自己表現のハードルに差があったりすることに十分注意が払われてきたとは言にくい。とりわけ対話というコミュニケーションは認識的不正義が顕在化しやすい領域であり、認識的不正義の議論は、そのような不正義への

介入なしに「子どものための哲学」が相互尊重や対等性を実現することはできないことを示唆している。

西山溪氏は近著「探究の共同体における認識的不正義とファシリテーション」（小玉重夫監修、田中伸／豊田光世編『対話的教育論の探究－子どもの哲学が描く民主的な社会』、東京大学出版会、2023 年）において、教室での哲学対話における認識的不正義の事例を特定し、ファシリテーターに何ができるかを問うている。また、「何を言ってもいい」「ただ聞いているだけでもいい」など、国内の哲学対話に広まっている「ルール」の一部に、認識的不正義の発生を助長する面があるという重要な指摘をしてもいる。

以上を踏まえて、この研究ワークショップでは、まず、西山氏を講演者に迎え、子どものための哲学における認識的不正義について問題提起をしていただく。次に、フリッカー『認識的不正義』の監訳者であり、『認識的不正義ハンドブック』の編者でもある佐藤邦政氏をコメンテーターに迎え、西山氏との議論を深める。さらに、会場の参加者を交えて全体での話し合いの時間を持ち、最後に、佐藤氏にワークショップ全体を振り返り、今後の展望を示していただく。なお、講演に先立って、認識的不正義について授業で学んだ、明治大学哲学専攻の学生による発表も予定している。

（企画：池田喬）